



本社 神奈川県横浜市港北区新羽町1756 〒223-0057 TEL 045-531-4133(代表) FAX 045-543-3011
ホームページURL <http://www.alpsbutsurey.co.jp>
投資家情報URL <http://www.alpsbutsurey.co.jp/ir/index.htm>

Logistics



代表取締役社長
やすま よういち
安間 洋一

さらにグローバルで高品質な 「総合物流サービス」を提案してまいります。

初冬の候 株主の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

当中間期の我が国経済は、企業業績が好調に推移する中、設備投資や生産が増加するとともに、個人消費も緩やかに回復するなど、景気の拡大が続いてきました。

当社の主要顧客である電子部品業界は、薄型テレビや携帯電話向けの需要を中心に比較的好調に推移いたしました。

このような事業環境の中、当社グループは売上の拡大に向けて、多様化する顧客ニーズに適した物流サービス商品の開発やグローバルな物流体制の整備・拡充に取り組んでまいりました。

中国におきましては、中国内でのトラック輸送の長距離ネットワークの拡大に取り組むとともに、新たな支店設立など拠点展開を進めてまいりました。また、メキシコの新会社も1月より事業を開始し、倉庫業務を中心に受託拡大を図っております。

お蔭様をもちまして2006年9月の中間決算は、当社単独、海外法人、また消費物流分野を担う(株)流通サービスのそれぞれが順調に売上、利益を拡大し、連結・単独とも増収・増益の結果を残すことができました。

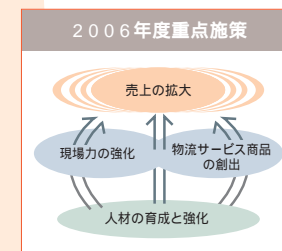
今後も、専門分野に特化した総合物流企業として、グローバルかつ高品質な物流サービスを提供し、業容の拡大とグループ企業価値の最大化を図ってまいります。

株主の皆様には、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

Q 2006年度 下期の事業方針について教えてください。

A 下期の事業方針につきましては、当社の中期的な方針である「電子部品に特化したグローバルな物流事業を展開し、業容の拡大を図る」ことをベースに、期初に立てた重点施策を引き続き着実に推進していきます。

重点施策として、「現場力の強化」を図るとともに、新たな「物流サービス商品の創出」として、これまで蓄積された物流技術とノウハウを活用した物流商品の開発、グロー



バルな物流ネットワークの整備拡大を進め、「売上の拡大」を図ることを挙げています。また、これらを実現するための「人材の育成と強化」も重要な課題と考えています。

下期における物流ネットワークの拡大については、次のとおり計画しています。

国内では、九州地区でのビジネス増加への対応や、博多港・福岡空港を活用した国際貨物のリードタイム短縮などを目的に、福岡に物流拠点を開設することとしました。スムーズな立上げを行い、売上の増加につなげていきたいと考えています。

海外では、中国において、上期に寧波支店を設立し、輸出入関連業務を中心に業務を開始しましたが、更に年末に向けて廈門に支店開設の準備を進めています。これによって、中国の沿岸部を結ぶ運送事業の強化と同地区での保管、フォワーディング事業の拡大を図っていきます。

この下期の事業環境につきましては、これまで世界

経済の牽引役であった米国経済に減速の兆しが見られるようになり、日本の景気に与える影響も懸念されるところです。気を引き締め、全社一丸となって、業容の拡大に努めていきたいと考えています。

Q 地球環境の保全への取組みについて教えてください。

A 環境問題については、「グリーンロジスティクス」を掲げて様々な面からの取り組みを進めています。まず、当社には輸送事業者として、トラックからのCO₂排出量の低減が求められます。低燃費の車両の導入を積極的に行うとともに、現場においてはアイドリングストップをはじめとする「エコドライブ」を推進しています。そして、地球環境への一番の貢献は、何よりも積載効率をよくし会社全体としての運行台数を抑えることと考え、積載効率の管理システムなどその向上のための仕組みをつくっています。

また環境問題は、荷主であるお客様と当社が共有する課題ともいえます。現在当社では、各トラックのCO₂の排出量を算出し、お客様にデータとしてご報告できるシステムを整備しています。さらに、幹線の長距離輸送についてトラックではなく鉄道を活用する「モーダルシフト」もスタートするなど、お客様と協力しながら、より地球にやさしい事業活動を目指しています。

その他、包装材を再利用できるものに置き換えたり、納品作業に何度でも使える通い箱化を進めるなど、いろいろな面からの取り組みを行っています。

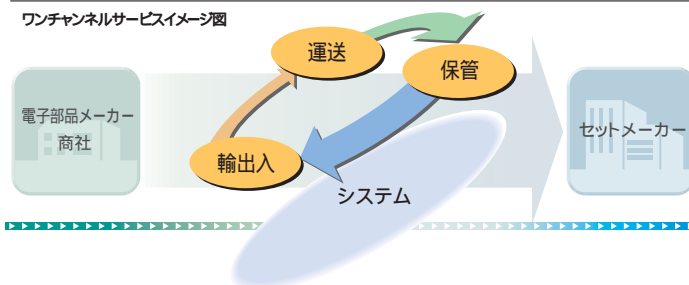
電子産業のグローバル展開に貢献する電子部品のための総合物流サービス

グローバルワンチャンネルサービス

地球規模で生産・販売活動を推進するお客様の
サプライチェーンマネジメントを支える

サービスの背景

ワンチャンネルサービスイメージ図



もはや常識となっている企業経営のグローバル化。中でも、最も活発な海外展開を行っている産業分野が、アルプス物流が顧客とする電子部品業界です。客先となるセットメーカーの工場に密着した形で、海外に生産拠点を構えたり、日本で生産した製品を海外の納品先まで短納期で運ぶ必要が出てきています。

競争の激しい電機業界においては、絶えず生産や物流の効率化が進展しており、生産の舞台が日本から海外にシフトしても、従来と同じクオリティでビジネスを行うことが求められます。電子部品メーカー・商社といったアルプス物流のお客様には、海外でも日本国内と同じ物流サービスを求められています。こうした中でアルプス物流では、お客様の工場からお客様の納品先に至るまでの運送・保管・輸出入といったすべての物流機能を日本と海外を結んで、アルプス物流1社でお引き受けする「グローバルワンチャンネルサービス」を提供しています。



▼ 今後のサービスの取組みについて



本社 営業推進部 営業推進二課
野村 雅志 課長

お客様の物流ニーズが、よりグローバル化するにつれ、国内・海外を問わず高い専門性に加えて総合的な知識・経験を持った営業マンが求められています。

アルプス物流では、国内の営業所と海外法人の連携による営業活動等を通じ、より総合的なご提案ができる営業体制を整えております。

Column

サービスの要となる多機能型ハブ拠点

グローバルワンチャンネルサービスの中核的役割を果たすのが、日本への玄関口として機能すると共に、日本国内の物流ネットワークと直結する多機能型物流拠点「成田営業所」「東京港センター」です。これらの特長は、内貨、保税倉庫が一体となっている点にあります。例えば、成田営業所に海外への輸出貨物をストックしておくことや、逆に海外からの輸入貨物を成田営業所にストックすることにより、国内外の納品先へスピーディにお届けすることができます。これによって、お客様の物流リードタイムの短縮、在庫圧縮などに貢献しています。



成田営業所

東京港センター

保税エリア

電子部品専門の物流サービスを海外でも

グローバルワンチャンネルサービスは、日系の電子部品メーカーやセットメーカーが多数進出する中国でも、多くのお客様からご支持をいただいています。その理由は、電子部品物流に求められる高品質な取り扱いやジャストインタイム納品といった日本と同じレベルの物流サービスをDoor to Doorで提供しているからです。さらに日本と同じ情報システムによる物流管理体制、電子部品に適した保管環境など、独自のソフト・ハードを整備することによって、競合他社との物流サービスの差別化を実現しています。



中国での新たな物流ニーズへの対応 ～トラック長距離輸送ネットワークの拡充～

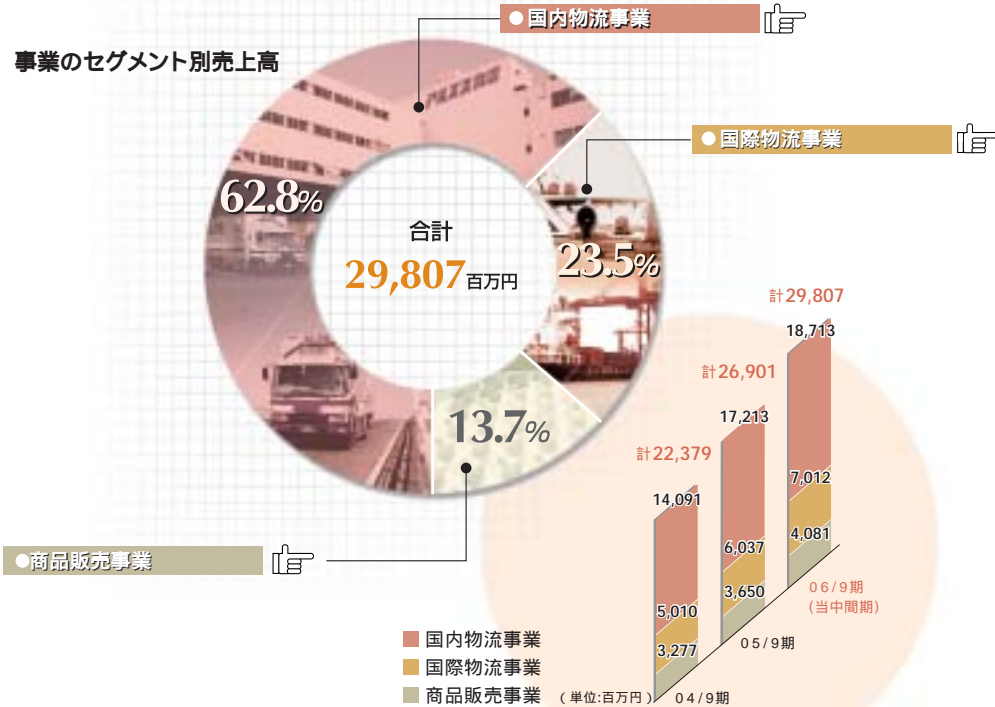


1990年代より多くの日系電子部品メーカーが中国へ進出してきましたが、ここ数年、その物流ニーズに変化が見られるようになってきました。これまで各メーカーは電子部品の輸出を中心とした生産活動を行ってきたため、生産材料の輸入や完成した部品の輸出業務がほとんどでした。しかし、中国国内への電機メーカーや自動車メーカーの進出が加速し、また消費地としての中国の存在が大きくなるにつれて、電子部品を中国内のお客様の納品先へ輸送するニーズが増加してきています。そして近年の高速道路網の整備が、トラックによる長距離輸送の拡大を促進しています。

当社では、上海-広東省東莞(1,800km)間の24時間輸送を実現しており、さらに近隣の香港まで貨物を転送することにより、上海から香港へ飛行機輸送した場合と匹敵するリードタイムでの納品を可能にしています。トラック輸送へ置き換えることによって、顧客の運送コストの低減を図るとともに、積換え回数の減少により貨物への影響を減らすなど、高品質な運送サービスの提供を推進しています。

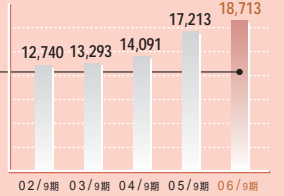
決算ハイライト

当中間期の決算につきまして、
その主な概要をご報告いたします。



セグメント別売上高の推移

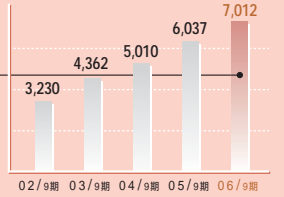
(単位:百万円)



●国内物流事業

電子部品物流は、電子部品業界が比較的好調に推移する中、顧客のアウトソーシング・ニーズを捉えた拡販を進め、運送、保管業務とも売上を伸ばしました。消費物流の子会社(株)流通サービスも、生協向け個配・流通加工を中心に増収となりました。

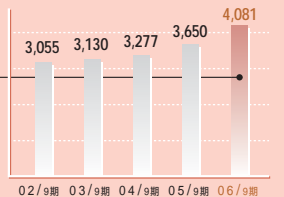
売上高 18,713 百万円 (前期比 8.7%増)



●国際物流事業

顧客のグローバルな物流ニーズが高まる中、引き続き、フォワーディング事業の強化や、中国を中心とした拠点・ネットワークの拡充を推進し、特に海外法人で売上を拡大いたしました。上海及びメキシコの新法人も、売上増加に寄与しました。

売上高 7,012 百万円 (前期比 16.2%増)



●商品販売事業

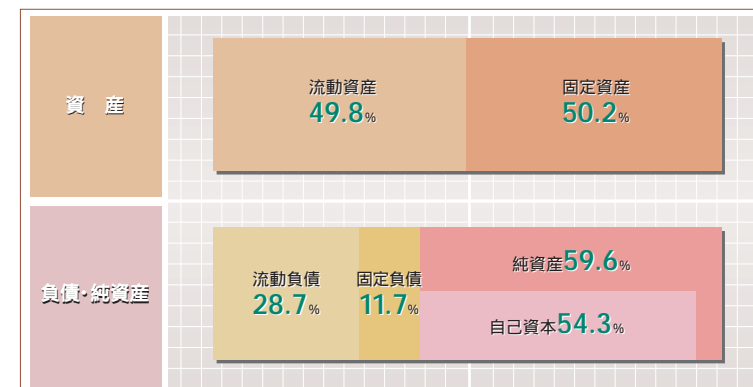
包装資材および成形材料販売の商品販売事業につきましては、国内での拡販に加え、中国でも、顧客の資材調達ニーズに対応した販売活動を進め、国内外それぞれで売上を伸ばしました。

売上高 4,081 百万円 (前期比 11.8%増)

主要な連結経営指標等の推移

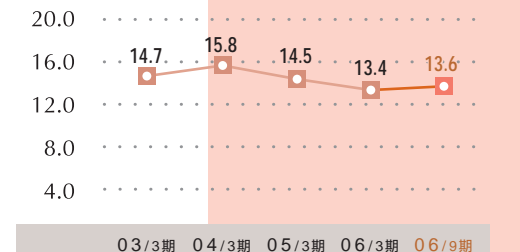
科目	02/9期	03/9期	04/9期	05/9期	06/9期
売上高	19,026百万円	20,784百万円	22,379百万円	26,901百万円	29,807百万円
営業利益	1,773百万円	2,199百万円	2,366百万円	2,528百万円	2,824百万円
経常利益	1,732百万円	2,167百万円	2,358百万円	2,519百万円	2,914百万円
中間純利益	990百万円	1,121百万円	1,310百万円	1,268百万円	1,589百万円
1株当たり中間純利益	60円69銭	68円74銭	80円44銭	71円67銭	89円84銭
科目	03/3期	04/3期	05/3期	06/3期	06/9期
総資産	30,758百万円	35,512百万円	40,575百万円	42,044百万円	44,120百万円
純資産	14,166百万円	15,971百万円	19,646百万円	22,700百万円	26,311百万円
自己資本比率	46.1%	45.0%	48.4%	54.0%	54.3%
1株当たり純資産	865円98銭	978円03銭	1,107円79銭	1,281円13銭	1,352円72銭
設備投資額	1,437百万円	4,288百万円	2,751百万円	933百万円	512百万円
減価償却実施額	953百万円	1,037百万円	1,143百万円	1,333百万円	638百万円

財政状態



ROE(自己資本利益率)

(単位:%)



ROE: 自己資本利益率=当期純利益÷(期首自己資本+期末自己資本)
(中間期は利益を2倍にして計算しています)

連結財務諸表

中間連結貸借対照表の要約

(単位:百万円)

資産の部	06/9期	06/3期	前期末比増減額
●流動資産	21,974	19,665	2,308
現金・預金	10,412	8,969	1,443
受取手形・営業未収金	9,410	8,454	956
繰延税金資産	588	476	112
その他	1,561	1,764	203
●固定資産	22,146	22,378	231
●有形固定資産	18,705	18,865	160
建物・構築物	10,002	10,239	237
機械装置・運搬具	1,151	1,093	58
土地	6,924	6,924	—
その他	627	609	18
●無形固定資産	903	922	19
投資その他の資産	2,537	2,589	51
投資有価証券	521	550	29
繰延税金資産	504	466	37
その他	1,512	1,572	60
●資産合計	44,120	42,044	2,076

流動資産
営業活動によるキャッシュ・フローの確保による現金・預金の増加や、売上の伸びに伴う営業債権の増加によって、流動資産は前期末比23億円増の219億円となりました。

有形固定資産
当中間期の設備投資は、車両購入を中心に5億円の投資を行いました。有形固定資産の残高は、減価償却費の計上6億円により、前期末比1億円減少し、187億円となりました。

資産合計(総資産)
流動資産の増加により、総資産は前期末比20億円増の441億円となりました。

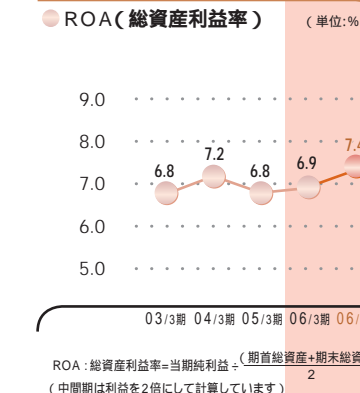
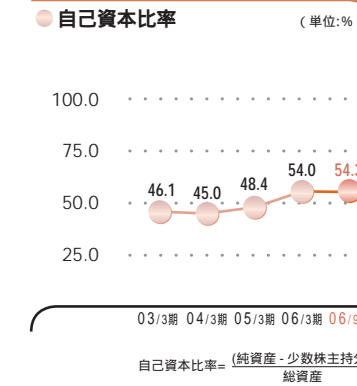
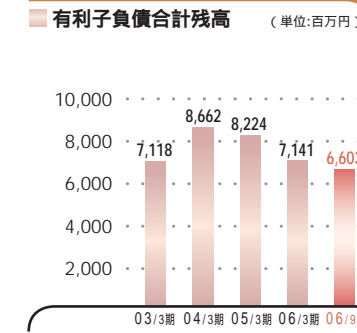
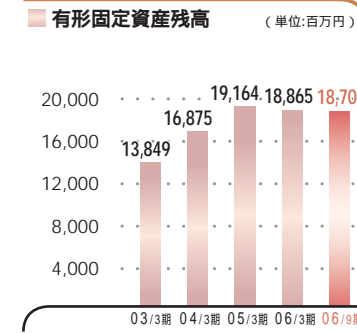
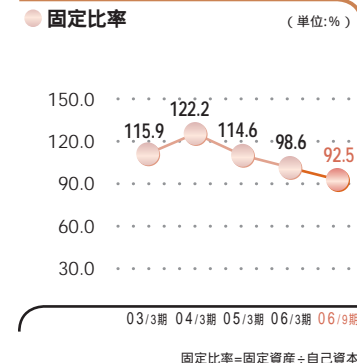
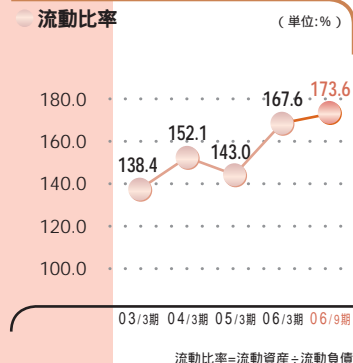
負債の部	06/9期	06/3期	前期末比増減額
●流動負債	12,656	11,736	920
支払手形・営業未払金	4,645	4,318	327
短期借入金	2,684	2,935	250
その他	5,325	4,482	843
●固定負債	5,152	5,344	191
長期借入金	3,918	4,206	287
その他	1,234	1,138	95
●負債合計	17,809	17,081	728

負債合計
売上の伸びに伴い流動負債の買掛債務やその他(未払金など)も増加したことを受け、負債合計は前期末比7億円増の178億円となりました。なお、有利子負債の残高は前期末比5億円減の66億円となりました。

純資産の部	06/9期	06/3期	前期末比増減額
●株主資本	23,679	22,341	1,338
資本金	2,349	2,349	—
資本剰余金	2,029	2,029	—
利益剰余金	19,351	18,013	1,338
自己株式	50	50	—
●評価・換算差額等	257	358	101
●少数株主持分	2,374	2,262	112
●純資産合計	26,311	24,963	1,348
●負債・純資産合計	44,120	42,044	2,076

純資産合計
中間純利益の確保による利益剰余金の増加などによって、純資産は前期末比13億円増の263億円となりました。自己資本比率につきましては、前期末比0.3ポイント上昇し54.3%となりました。

注: 06/9中間期より貸借対照表の表示方法が変更となりましたが、06/3期につきましても比較のため、新規準に基づいた表示を行っております。



連結財務諸表

中間連結損益計算書の要約

(単位:百万円)

科目	06/9期	05/9期	前中間比増減額
●売上高	29,807	26,901	2,905
売上原価	25,369	22,945	2,424
販売費及び一般管理費	1,614	1,428	185
●営業利益	2,824	2,528	296
営業外損益	90	8	99
経常利益	2,914	2,519	395
特別損益	4	256	260
税金等調整前中間純利益	2,919	2,263	656
法人税、住民税及び事業税	1,190	908	282
法人税等調整額等	137	113	23
少数株主利益	276	200	75
●中間純利益	1,589	1,268	321

売上高

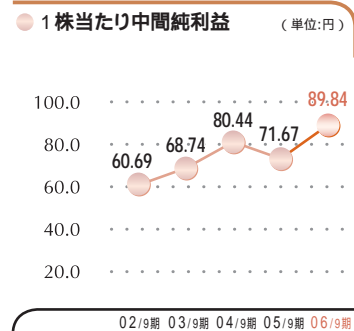
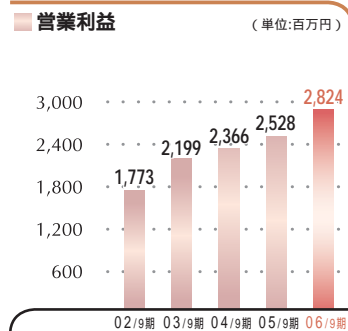
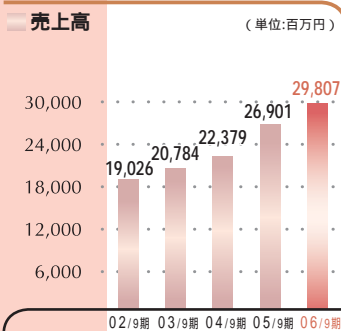
当社グループの主要貨物である電子部品の市況が比較的好調に推移し、また景気も回復を続ける中、顧客ニーズを捉えた拡販活動や物流ネットワークの拡充を進めてまいりました。当社単独、国内外の子会社ともそれぞれ売上を伸ばし、前中間期比10.8%の増収となりました。

営業利益

グループ各社における増収効果や事業の効率化推進に伴い、営業利益につきましても前中間期比11.7%の増益となりました。

中間純利益

当中間期は、特別損益の発生がほとんどなかったことから、中間純利益は前中間期比25.4%の増益となりました。



中間連結キャッシュ・フロー計算書の要約

(単位:百万円)

科目	06/9期	05/9期	前中間比増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,710	1,994	715
投資活動によるキャッシュ・フロー	232	1,721	1,489
財務活動によるキャッシュ・フロー	924	832	92
現金及び現金同等物に係る換算差額	56	127	183
現金及び現金同等物の増加額	1,497	432	1,929
現金及び現金同等物の期首残高	8,766	7,648	1,117
現金及び現金同等物の中間期末残高	10,263	7,216	3,046

営業活動によるキャッシュ・フロー

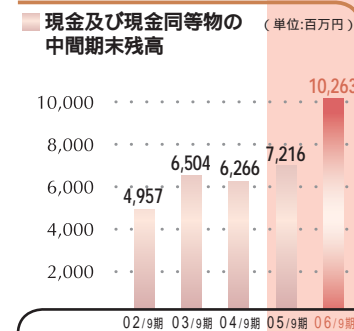
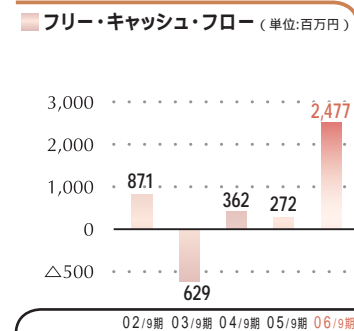
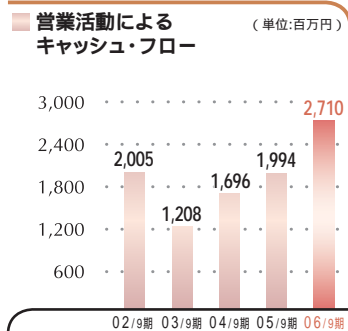
営業活動によるキャッシュ・フローは、27億円の収入となりました。「税金等調整前中間純利益」の増加などにより、前中間期比7億円の収入増となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、大型の設備投資がなかったことにより、前中間期より14億円少ない2億円の支出にとどまりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済や配当金の支払等により、9億円の支出となりました。



単独財務諸表

中間単独貸借対照表の要約

(単位:百万円)

資産の部	06/9期	06/3期	前期末比増減額	負債・純資産の部	06/9期	06/3期	前期末比増減額
流動資産	11,782	10,395	1,386	流動負債	7,882	7,616	266
固定資産	16,079	16,347	267	固定負債	975	1,062	86
有形固定資産	12,016	12,150	134	負債合計	8,858	8,679	179
無形固定資産	520	528	7	純資産合計	19,003	18,063	939
投資その他の資産	3,542	3,668	125	(うち、資本金)	2,349	2,349	—
資産合計	27,862	26,742	1,119	負債・純資産合計	27,862	26,742	1,119

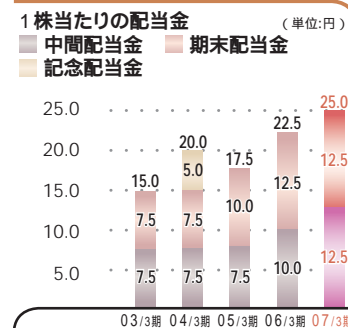
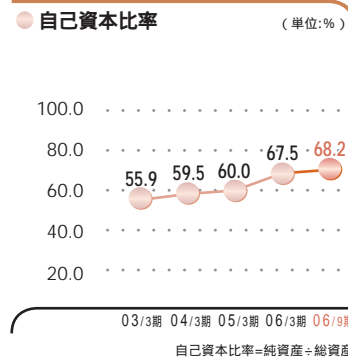
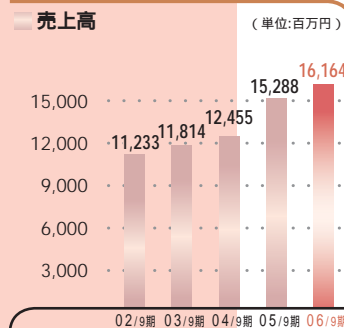
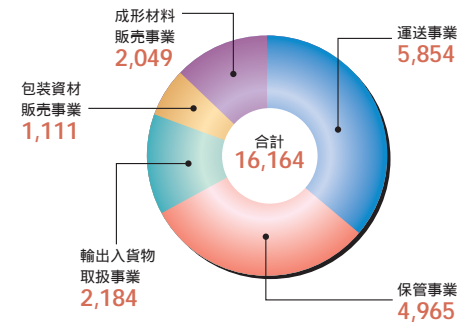
中間単独損益計算書の要約

(単位:百万円)

科目	06/9期	05/9期	前中間比増減額
売上高	16,164	15,288	876
売上原価	13,309	12,678	631
販売費及び一般管理費	1,202	1,062	140
営業利益	1,652	1,547	104
経常利益	1,877	1,724	153
税引前中間純利益	1,896	1,632	264
中間純利益	1,200	1,019	181

事業別売上高

(単位:百万円)



株式の概況

(2006年9月30日現在)

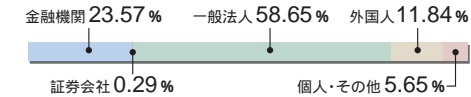
株式の状況

発行可能株式総数
...70,000,000株

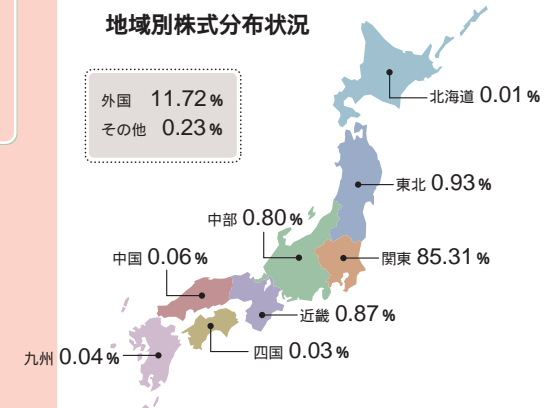
発行済株式総数
...17,737,200株

株主数
...1,284名

所有者別株式分布状況



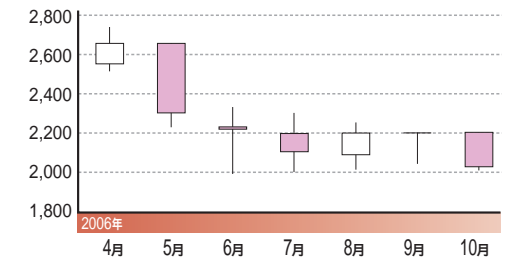
地域別株式分布状況



大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
アルプス電気(株)	8,263	46.59
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	1,777	10.02
TDK(株)	1,402	7.91
日本トラスティサービス信託銀行(株)(信託口)	844	4.76
バンクオブニューヨーク・ヨーロッパリミテッド	819	4.62
資産管理サービス信託銀行(株)(年金信託口)	428	2.42
アルバイン(株)	396	2.23

株価の推移 (2006年4月~2006年10月)



Business Locations

拠点の状況

(2006年9月30日現在)

事業所

- | | | |
|----------|----------|--------|
| 本社 | 小名浜営業所 | 横浜営業所 |
| 盛岡営業所 | 郡山営業所 | 長野営業所 |
| 秋田営業所 | 新潟営業所 | 静岡営業所 |
| 北上営業所 | 羽生営業所 | 相良営業所 |
| 北上後藤野営業所 | 高崎営業所 | 名古屋営業所 |
| 庄内営業所 | 松戸営業所 | 瀬戸営業所 |
| 古川営業所 | 成田営業所 | 富山営業所 |
| 仙台営業所 | 航空事業センター | 大阪営業所 |
| 相馬営業所 | 東京港センター | 東大阪営業所 |

国内法人

- 株式会社流通サービス 株式会社流通運輸

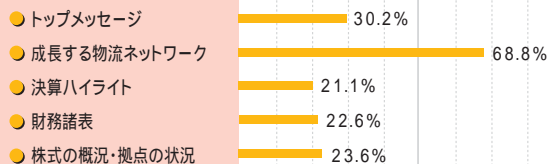
海外法人

- | | |
|--------------------|------------------------------------|
| 大連泰達アルプス物流有限公司 | アルプス物流香港有限公司 |
| 天津泰達アルプス物流有限公司 | アルプス・ナイガイ・ロジスティクス(マレーシア) SDN. BHD. |
| ・上海支店・大連支店・無錫支店 | ・ポート克蘭支店・ジェンカ支店 |
| ・杭州支店・蘇州支店・太倉支店 | アルプス・ロジスティクス(S) PTE. LTD. |
| アルプス物流(上海)有限公司 | アルプス・ロジスティクス(USA) INC. |
| ・物流園区支店 | アルプス・ロジスティクス・メキシコ S.A. DE C.V. |
| 上海アルプス物流国際貨運代理有限公司 | 上海東軟時代物流軟件有限公司 |
| ・寧波支店 | |
| 広東アルプス物流有限公司 | |

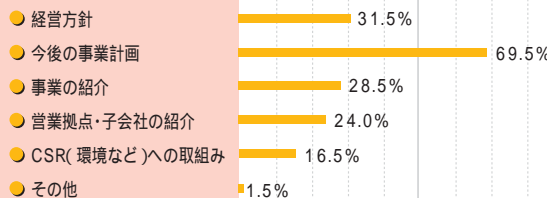
アンケートのご報告

アンケート集計結果を下記のとおりご報告申し上げます。

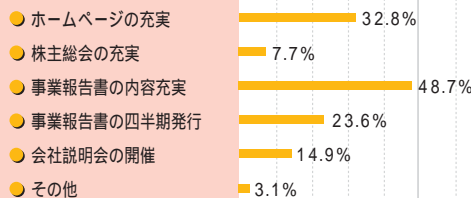
Q1. ご興味を持たれた記事



Q2. 今後「IRレポート」で取り上げてほしい内容



Q3. 当社の情報開示およびIR活動にどのようなことを望まれますか



回答数 208名

ご意見の一部をご紹介します

「競争が激しい業界でしょうが、アルプス物流に期待しておりますので、株価が上昇する様に頑張ってほしいです。」
(60代 主婦・パート)

「業績が良いので喜んでいる。今後とも頑張って増配の方もお願いします。」
(70代以上 無職)

「国際物流事業に注力して事業規模を拡大してほしい」
(30代 会社員)

「財務諸表の注釈説明に好感を持ちました。これからも、よりわかりやすい報告書作りを期待しています。」
(20代 会社員)

「長期保有株主を対象に優待制度を導入してほしい」
(70代以上 無職)

ご協力ありがとうございました。

第42期事業報告書に同封いたしました、「株主様アンケート」に多数のご回答を賜り、誠にありがとうございました。
今回掲載させていただきましたコメントの他に、事業報告書についてのご感想や、「IR活動が足りない」といった厳しいご指摘など、多数のご意見・ご要望をいただきました。皆様からいただきました貴重なご意見につきましては、今後のIR活動に活かしていきたいと考えております。
なお、今回より当レポートの名称を「事業報告書」から「IRレポート」に変更いたしました。
これからも充実した「IRレポート」を目指して作成をしてまいりますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

トピックス



福岡営業所を開設

電気機器、自動車関連の生産が活発化している九州地区での物流サービスの強化を目的に福岡に拠点を開設しました。現在は配送センターとして運営していますが、来年1月には福岡営業所として本格稼働する予定です。

九州地区向けの輸入貨物について、中国や韓国に近い博多港や福岡空港を利用して、福岡営業所が配送を行うことにより、リードタイムの短縮を実現します。また、関東への輸入貨物を博多港経由で長距離輸送するなど、モーダルシフトへ対応したサービスも提供しています。

寧波支店を開設

2006年8月に、上海アルプス物流国際貨運代理の寧波支店を開設しました。寧波は中国大陸の海岸線のほぼ真ん中にある上海経済圏の港湾都市で、国際貿易の盛んな地域です。

アルプスグループの現地法人の輸出入・保管業務から事業を立ち上げ、フォワーディング業務を中心に、一般顧客への拡販を図っていく計画です。



Corporate Data

会社情報

(2006年9月30日現在)



当社ホームページもご覧ください。
最新のIR情報をはじめ、当社の様々な情報をご覧いただけます。

ホームページURL <http://www.alpsbutsurey.co.jp>
投資家情報URL <http://www.alpsbutsurey.co.jp/ir/index.htm>

社名 株式会社アルプス物流
英文社名 ALPS LOGISTICS CO., LTD.
本社所在地 〒223-0057 神奈川県横浜市港北区新羽町1756
電話番号 045-531-4133(代表)
設立 1964年7月2日
資本金 23億4,904万円
社員数 (連結)3,339名(単独)728名
運行車両数 493台
倉庫面積 216,554㎡

Shareholder Memo

株主メモ

決算期 年1回 3月31日
定時株主総会 6月
株主確定基準日 定時株主総会・期末配当金... 3月31日
中間配当金... 9月30日
その他予め公告する日
公告の方法 電子公告
上場証券取引所 東京証券取引所市場第2部
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
電話照会先 0120-707-696(フリーダイヤル)
同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社 全国本支店

名義書換、住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求などに必要な各用紙、および株式の相続手続依頼書のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル0120-864-490で24時間承っております。